

委員会 トピックス

総務民生常任委員会

新型コロナウイルス

対策の1年

令和2年度の委員会活動は、報告案件37件のうち、新型コロナウイルス関連案件が11件と新型コロナウイルス対策が委員会での大きなテーマとなりました。

◎実施日 2月22日

◎協議事項 ①新型コロナウイルス感染者情報の公開について

②ワクチン接種体制の状況について

〈新型コロナウイルス感染者情報の公開について〉

町内での感染者情報の公開に対し、町はその情報が保健所等から提供がないとのことであったが、ホームページで感染者の情報を公開している自治体がある状況から、自治体間の情報の格差の確認と本町の考え方を協議。

【協議結果】

・公開している自治体の状況
自治体独自で感染者情報を収集し公開しているのではなく、北海道が公表している情報の中で自治体名が公開されている情報を改めて公開していることが分かりました。

・本町の考え方

他の自治体と同様、北海道が公開した情報の中に本町名が明記された場合は、町内感染者数として公開していく。

〈ワクチン接種体制の状況について〉

国や道でもワクチン接種の情報が錯綜している状況。町民へのワクチン接種に向けた準備状況を確認。

【協議結果】

- ・個別接種場所として、花月クリニック、空知中央病院で実施。
- ・集団接種はゆめりあで実施し、花月クリニック、空知中央病院の医師が対応。
- ・集団接種会場までの送迎バスを用意。
- ・高齢者への接種券の送付を3月中旬に予定(具体的内容は後日通知)。
- ・予約、相談受付としてコールセンターに業務委託。
- ・事務職、保健師の会計年度任用職員を配置予定(令和3年度予算に計上)。

※その後、3月定例会時における町長からの情報提供では、
・3月末に超低温冷蔵庫が花月クリニックに配備予定。
・4月の最終週にワクチン1箱(975回分)が入る予定。
全国レベルでの動きではありませんが、町民が不安なくワクチンを接種できるように、委員会として動向を注視していきます。

【令和3年度予算の注目点】

- ★新型コロナウイルス禍における行政区活動 (コロナ対策を支援するため交付金を上乗せ助成)
- ★小型家電無料回収事業(令和3年度から予算化、窓口引き取りに)
- ★子育て世代包括支援センター運営事業(令和3年度に新設)
- ★第6次総合計画策定事業(10年を見据えた町の計画策定)
- ★地域公共交通(令和4年4月新体系での運行開始)



バイオマスチップセンター
および新十津川町熱供給センター視察

3月16日、みどり区の(株)幸稜とふるさと公園内の新十津川町熱供給センターを視察しました。

本町の豊かな森林資源を生かすため、木質バイオマスエネルギーの有効活用が開始されています。

(株)幸稜
バイオマスチップセンター

(株)幸稜では、原木をホイールローダー・グラブブルユニボで工場内のチップ加工・研磨機に投入します。5センチメートル程度まで粉碎されたものが、チップとして使用されます。

金野眞幸代表取締役から「王子木材緑化、そらち森林組合等との安定取引協定に基づき、林地未利用間伐材等を確保し、今後、地元国有林および道有林からの安定購入を推し進め、なお一層の安定生産に努めたい」と説明を受けました。

チップ供給量(計画予定)

18,450BDT/年

※BDT=乾燥重量



▲グラブブルユニボ



区分	区分予定
未利用間伐材等	45,000m ³ /年
うち、空知管内から	約2/3(3万m ³)
空知管外から	約1/3(1.5万m ³)

新十津川町熱供給センター

バイオマスチップセンターで製造されたチップは、ダンプロトラックで、熱供給センターのチップサイロに搬送されます。

チップサイロから、自動制御によりバイオマスボイラーにチップが投入され、燃焼し熱源となります。

バイオマスボイラーの導入により、ふるさと公園内の3施設(グリーンパーク・スポーツセンター・温水プール)の熱源を、従来の燃料である重油や灯油からチップに代替することで、CO₂の削減効果が見込まれます。



▲熱供給センター外観

視察を終えて

木質バイオマスという自然エネルギーを活用することで、地域内経済にも大いに貢献できるシステムは、貴重だと考えます。このような施設の機能が十分に発揮されることを望みます。



▲バイオマスボイラー



▲チップ搬入中